



きら 煌めく人 たち

「竹炭を使った環境美化」

ゆきのり あつほ
岩崎 幸憲 さん、温穂 さん (五和町城河原1丁目・69歳、64歳)

五和町城河原に住む岩崎さん夫妻は、農作業のかたわら5年前から竹などを使った炭作りに取り組んでいる。竹炭を作るきっかけは、幸憲さんが旧五和町の地球温暖化防止推進委員やゴミの監視員を務める中で「山の間伐で切った竹とか雑木で炭を作れば、環境にも優しく良いのでは」と思ったこと。炭作りは体力が必要で時間もかかる。「炭の焼き具合は、窯の煙突から出てくる煙の色で見極めますが非常に難しいんです」と話す。はじめのころは、炭ではなく、灰になっ

てしまうのがほとんどだったが、失敗を繰り返していくうちに徐々に形のあるものになっていった。「窯から炭を取り出すとき、その出来上がりを見るのが楽しみです。ひやひやします」と温穂さん。幸憲さんも「自分が納得のいく炭ができません」と、さらに努力を積み重ねている。昨年12月には、この炭焼きを、城河原小学校の生徒たちの体験学習として実施。生徒たちは、今年3月にできた炭を網の中に入れ、近くにある内野川に沈め、川の水質の変化を研究、それを5月30日に開催された「ホテルフェスタ」で発表した。夫妻は生徒から届けられたお礼の手紙を手に「子どもたちが、真っ黒になりながら取り組んでいるのを見て、とてもうれしくて元気をもらいました」と微笑む。これからの抱負を尋ねると「今後は宿泊しながらいろいろな体験を楽しんでもらいたい」とのこと。人とのコミュニケーションが大好きな夫妻は、そのため、現在自宅を改装中である。

ハッピーバースデー 今月で1歳になります

 木村 乙夏 ちゃん おとが 本渡町広瀬 父・健史さん 母・友枝さん 呼春姉ちゃんと毎日元気に遊んでます！	 岡田 紗希 ちゃん さき 五和町御領 父・隆通さん 母・美紀さん 家族の人気者です。すくすく成長しています。	 佐藤 優衣 ちゃん ゆい 八幡町 父・正樹さん 母・知寿子さん いっぱい食べて、元気にやさしく育ててね！
 横手 心愛 ちゃん こころ 久玉町 父・大嗣さん 母・真帆さん 心ちゃんスマイルをふりまいてます。スカイお兄ちゃん大スキ♡	 岡田 裕聖 くん ゆうと 有明町下津浦 父・寿幸さん 母・卓世さん 腹減ったー。眠ったー。以外は愛きょう抜群の跡取り息子です!!	 富山 ちなつ ちゃん 倉岳町宮田 父・進市さん 母・庸江さん ごはんと歌が大好き!!雄大にいい、これからも仲良くしてね♡
 長木 美空 ちゃん みく 今釜新町 父・誠さん 母・純子さん かわいい笑顔にみんなメロメロです☆	 本多 乃彩 ちゃん のあ 亀場町亀川 父・弘典さん 母・綾さん パパとママの宝物♡明るく元気に育ててね!!	 岡部 文香 ちゃん ふみか 本渡町本戸馬場 父・祐一さん 母・明美さん じいじとパンが大好きです♡たくさん食べて大きくなってね!

8月で満1歳になるお子さんを募集します!
 ●応募期限=7月10日(金)まで(必着)。
 ●応募方法=写真裏にお子さんの住所、氏名(ふりがな)、生年月日、性別、電話番号、コメント(30字以内)、保護者名(父・母)を記入し、〒863-8631(住所記載不要)天草市役所秘書課へ郵送または持参してください。なお、写真はお子さんが大きく、鮮明に写っているものをお願いします。また、写真の掲載は9人まで(応募者多数の場合は抽選)とし、応募写真は返却しません。

現代に息づく 歴史の証 「一町田八幡宮虫追い祭り」(河浦町)

鮮やかな五色の旗が風にはためくようすが印象的な、河浦町の「一町田八幡宮虫追い祭り」が7月19日に行われます。これは、虫追いと豊作を祈願した祭りで、その始まりは寛永年間(1624～1644)にさかのぼると伝えられています。そのころの河浦地域では、稲や草木を食い尽くすほどの害虫が発生し、これを心配した老婆が、八幡宮に赤い絹布を奉納して数日間一心に祈り、その布で害虫を追い払ったところ、一匹もいなくな

たといわれています。このときの絹布が、現在の虫追い旗の元になっているようです。この虫追い旗、さおは竹製で1本20mほど。重さは約40kgもあります。これを通常1人で掲げ、鉦や太鼓を打ち鳴らしながら練り歩きます。虫追い祭りは各地にあります。このように旗をたなびかせて行進するのはほかに例がなく、市無形民俗文化財に指定されています。皆さんも伝統あるこの「虫追い祭り」をぜひご覧ください。



▲風にたなびく「虫追い旗」

地域が動く 天草が動く

「蛭を生かしたまちづくり」
 ～郷土を愛しむ心が一つになって～
 久玉地区振興会(尾谷次男会長)

東西に無量寺と正光寺を有し、門前町としての面影を持つ久玉町は、天草最古の海城「久玉城」が築城されたところで、文化財が多く点在する文化の薫り高い地域です。地元の上揚地区活性化グループでは、初めての試みとして昨年8月15日、ご先祖のお帰りの道しるべにと無量寺山門に至る参道に竹灯ろうをともし、墓参者の心を和ませました。また、文化財と川を生かしたまちづくりで地域を元気づけようと、毎年、参道に架かる眼鏡橋の下を流れる久玉川の清掃や通学路の除草を続け、今では再び蛭が飛び交う姿が見られるようになり、初夏の風物詩として静かなブームを呼んでいます。そこで、早速「蛭を育てる会」を結成。

蛭の乱舞を夢見て、眼鏡橋周辺の川に石灰石を並べて蛭の隠れ家を作ったり、産卵箱を用意して幼虫の飼育にも挑戦中です。

今後は、地域の資源である「蛭」を生かしながら、環境と地域にやさしいまちづくりを進め、子どもからお年寄りまで心のかよう久玉地区振興会を目ざしたいと考えています。

▲「蛭の隠れ家」づくりを行う地区住民